



Newsletter No. 33

Maxillofacial Prosthetics

発行人 米原啓之

編集 広報委員会

事務局 〒135-0033 東京都江東区深川2-4-11 一ツ橋印刷(株) 学会事務センター内

Tel: 03-5620-1953 Fax: 03-5620-1960

E-mail: max-service@onebridge.co.jp

委員会トピックス

「顎顔面補綴」雑誌のオンライン閲覧

本雑誌は、オンラインでの閲覧が可能となっています。

メディカルオンライン(<https://mol.medicalonline.jp/library/archive/select?jo=fh6gakug>)と、J-Stage (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jamp/-char/ja>)が対応しています。

メディカルオンラインでは2005年に発行された28巻1号から全文が閲覧することができます。また、本雑誌が発行されてから半年後に全文が公開されます。2021年4月20日現在、43巻1号まで閲覧可能となっています。大学など、メディカルオンラインとの契約を持つ機関では、15年以上前のものを読むことができますので、昔の文献を探している場合にも重宝します。

J-Stageでは、2021年4月20日現在、42巻1号(2019年6月発行)から43巻1号(2020年6月発行)までが閲覧可能です。メディカルオンラインと同様に雑誌が発行されてから半年後に全文が公開されます。43巻2号は2021年6月1日頃に公開される予定です。こちらは機関による契約は必要ありません。41巻より以前の文献も順次公開される予定となっており、本年5

月末には39巻～41巻も公開されます。

両者ともに、論文や総説だけではなく、学会誌と同様に学術大会の事後抄録や質疑応答もオンライン化されており、合わせて閲覧することが可能です。医中誌から検索することも可能ですので、過去の論文を読みたい先生方はぜひ検索してみてください。

また、学会のHP (https://jamfp.sakura.ne.jp/?page_id=206) からもリンクを貼ることと致しましたので、そちらから検索していただくことも可能となりました(トップページ左上のヘッダーにある「学会誌」から「学会誌について」を選択)。ぜひご活用下さい。

(編集用語検討委員会 堀 一浩)

認定医・認定士等の 申請・更新にかかる単位について

2021年度開催予定の第38回学術大会がWeb開催となりました。Web開催に参加いただくことで、2020年度分の学術大会出席と見なします。期間内に認定医・認定士の新規申請や更新申請を希望され、昨年中止となった学術大会の出席が必要な場合には、2021年6月に開催予定の第38回学術大会にご参加くださいますようお願い致します。今年度の認定医・認定士プレゼンテーションもWebにて開催致しますので、今後認定医・認定士申請をお考えの方は、ご参考にしていただければと思います。

尚、プレゼンテーションを行う2症例は、申請時点で3年以上経過観察を行った顎顔面補綴に関する症例であることを申し添えます。

(認定医制度委員会委員長 古賀千尋)

コロナ禍での歯科治療

コロナ禍前と現在の診療環境の変化

施設を問わず、新型コロナウィルス蔓延に伴い、この1年の診療環境の変化は大きかったのではないでしょうか？1年前にはサージカルマスクの枯渇により、医療施設においても必要不可欠なサージカルマスクの入手が困難となり、ご苦労をされたことと思います。また、さまざまな情報の錯綜により、われわれ歯科医師、歯科衛生士、スタッフはどのような個人防護具（PPE）を身に着けるべきか、どのような処置なら行って良いのか等、混乱した時期もありましたが、ここにきてようやく体制も落ち着いてきたようです。言うまでもなく物品の流通状況、予算等の観点からできることに限界があり、各々煩悶されている中、会員が所属する8施設（開業歯科医院を含む）に、コロナ禍前と現在の診療環境変化をお尋ねしましたのでご紹介をいたします（次項グラフ）。なお、本稿の転載・引用はご遠慮下さい。

(広報委員会 中島純子)

コロナ禍における顎顔面補綴治療の 現状と未来

筆者は、他院療養病床の患者さんを診に行っておりが、その病院は、素晴らしいことに、積極的にCOVID-19の回復期患者を受け入れている。私は、内科医からの依頼で、摂食嚥下障害の診断や、ミールラウンドで摂食状況を把握して咀嚼・嚥下回復を計画、食形態を決める役割を担っている。COVID-19の回復期では、以前普通食を咀嚼していた方が、すするように食事をとるしかできなくなっている（研究報告予定）。これは高齢者の患者さんであるが、やはり体力の低下が著しい。通常の市中肺炎やインフルエンザより後遺障害が長く大きいと思われる。あらためて、咀嚼する、という行為が、元気でないとできない行為であることが実感された。COVID-19は、かかってはいけない、広げてはいけない感染症である。

次のページのアンケート結果でも分かるように、義歯切削時の口腔外バキュームの使用と切削処置時ゴーグル（または眼鏡）の着用、印象材の薬液消毒は、コロナ禍前から全施設で行われていた。歯科でクラスターが生じない一因と思われた。N95を着用している施設は医科大学附属病院と総合病院の歯科口腔外科を標榜する施設でN95マスクの入手経路が確保されている環境にあると思われる（東邦大学でも、2020年4、5、6月はPPEが厳しい状態にあり、口腔外科、耳鼻咽喉科、整形外科、眼科など、災害時BCPを改変した縮小診療で対応した）。やはり、歯科医療施設においては、PPEの潤沢な確保が重要なポイントとなると思われ、今後、致死率の高い感染症発生に対して、備えておく必要があると思われた。

(広報委員会 関谷秀樹)

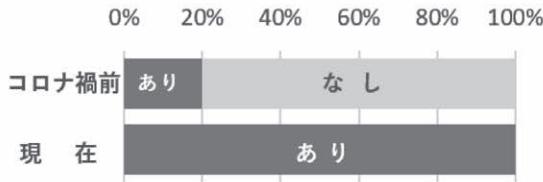
診療前の薬液を用いた含嗽



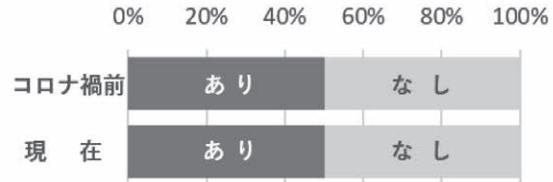
切削を伴う処置時の窓の開放



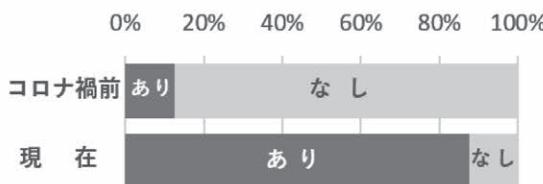
歯の切削・スケーリング時の口腔外バキュームの使用



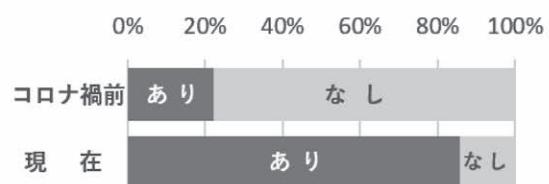
ユニット等のラッピング



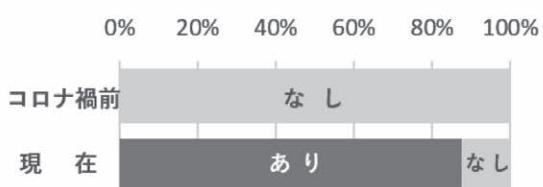
義歯切削時のヘッドキャップの着用



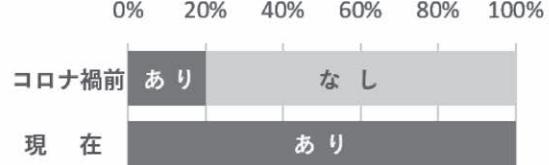
歯の切削・スケーリング時のヘッドキャップの着用



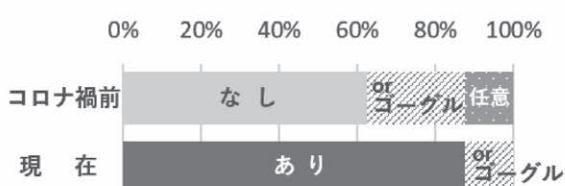
義歯切削時のプラスチックエプロンの着用



歯の切削・スケーリングのプラスチックエプロンの着用



切削処置時のフェイスシールドの着用



歯の切削・スケーリング時のN95マスクの着用



義歯切削時の口腔外バキュームの使用と切削処置時ゴーグル（または眼鏡）の着用、印象材の薬液消毒は、コロナ禍前から全施設で行われていた。プラスチックエプロンは、袖なしのが4施設、袖ありが4施設、診療室の窓の開放を行っていない施設は「構造上、開けることができない」施設

であった。

現在のサージカルマスクの交換頻度については「汚れた場合」か、「原則として患者ごと」が1施設、1日1枚が3施設、半日1枚が4施設であった。

2020年度優秀論文賞受賞者の声



小飯塚仁美

新潟大学大学院
医歯学総合研究科
包括歯科補綴学分野

関連学会報告

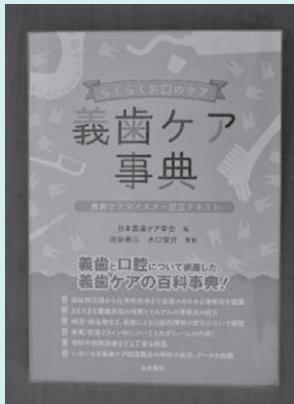
13th ISMR (International Society for Maxillofacial Rehabilitation) に参加して

令和3年2月5日～7日および、12日～14日に13th ISMR (International Society for Maxillofacial Rehabilitation) が「Reunite to Reconstruct and Rehabilitate」をメインテーマとしてZoomを用いたオンライン形式で開催されました。Indian Prosthodont Societyとの共同開催でした。今回はオンラインでの開催であり、開催時間が考慮され、1日4～5時間ごと、6日間にわたる学会となりました。さらに、時差の関係等でリアルタイムに聴講できない参加者のために、学会終了後1週間はオンデマンド配信もされました。

プログラムは、上顎、下顎欠損、インプラント、支持療法、顔面補綴、デジタルテクノロジーなど多岐にわたる内容の講演に続き、それぞれ、興味深いDebate（例：インプラントは切除と同時にを行うかVS二期的に行うか？など）や、パネルディスカッション（例：多職種連携に関して、など）が編成されていました。JAMPはISMRとAcademic Partnershipを結んでおり、本学会からも、東京医科歯科大学の隅田先生がNutritional issues in Head and Neck Cancer Patientsをテーマに、また愛知学院大学の吉岡がVirtual Surgical Planning of Facial Defectsをテーマに講演を行いました。セッション終了後には演者全員でのPanel Discussionが行われました。集合型開催と異なり、帰国のための飛行機時間等の心配が要らないせいか、長時間に及ぶ大変白熱したDiscussionとなりました。これまでの国際学会のように、様々な国の参加者と直接会って懇親する場がないことは残念ですが、Discussionを通して、世界中の国々の会員と交流することができ、大変有意義な学術大会となりました。

（広報委員会 吉岡 文）

書籍の紹介



「らくらくお口のケア
義歯ケア事典」
日本義歯ケア学会編
濱田泰三
水口俊介 監修
(永末書店)

日本は超高齢社会となり、誤嚥性肺炎が注目されています。誤嚥性肺炎を防ぐためには口腔内や義歯を清潔に保つことが重要です。この本は、義歯と口腔のケアに特化してコンパクトにまとめられており、歯科医師、歯科衛生士のみならず歯科医療従事者以外でもわかりやすく図解・説明されています。

内容は大きく3つに分けられ、1つ目は唾液や義歯、口腔内微生物、誤嚥性肺炎などの基礎知識、2つ目はデンチャープラーカコントロールの方法、義歯洗浄剤等の種類、顎義歯を含む装置の種類や残存歯のケア等を、3つ目は義歯ケアに用いる材料について記載されています。義歯は機械的洗浄だけでなく義歯洗浄剤を毎日使用したほうがよく、さらに超音波洗浄を行ったほうがよいことなど図解されています。ティッシュコンディショナーに使用可能な義歯洗浄剤についても適切な種類を提示してあり、大変勉強になります。

日本義歯ケア学会では義歯ケアマイスター制度があり、歯科医療従事者以外の一般の方でも学会の試験に合格すると義歯ケアマイスターを取得できます。ぜひ挑戦してみてください。

(広報委員会 大木明子)

2022年以降の日本顎顔面補綴学会

学術大会・総会の予定

新型コロナウィルスの蔓延に伴い2020年の第37回学術大会・総会（大会長：宮崎大学感覚運動医学講座顎顔面口腔外科学分野 山下善弘先生）はやむを得ず中止となり、今年度の第38回学術大会・総会（大会長：奥羽大学歯学部歯科補綴学講座 山森徹雄教授）はWeb開催となりました。来年度こそは集会型の開催が可能になることを祈っております。今後の開催予定は、以下の通りとなっています。

●第39回学術大会・総会（2022年）

会期：2022年6月23日～25日

大会長：山下善弘 先生

（宮崎大学感覚運動医学講座顎顔面口腔外科学分野）

会場：ニューウェルシティ宮崎

（宮崎市宮崎駅前東1-2-8）



●第40回学術大会・総会（2023年）

会期：未定

大会長：武部 純 教授

（愛知学院大学歯学部有床義歯学講座）

会場：未定



Newsletter No. 33

Maxillofacial Prosthetics

関連学会のご案内

●第26・27回合同学術大会

日本摂食嚥下リハビリテーション学会

会期: 2021年8月19日(木) ~ 21日(土)

第26回大会長: 松尾浩一郎

(東京医科歯科大学大学院地域・
福祉口腔機能管理学分野教授)

第27回大会長: 柏下 淳

(県立広島大学人間文化学部健
康科学科教授)

会場: 名古屋国際会議場

開催形式: ハイブリッド開催

現地 + LIVE 開催, オンデマンド開催

運営事務局: 株式会社コングレ中部支社

<http://www.congre.co.jp/jsdr2021/>

●第51回日本口腔インプラント学会学術大会

会期: 2021年10月22日(金) ~ 24日(日)

会長: 津賀一弘

(広島大学大学院先端歯科補綴学研究室)

会場: 広島国際会議場/広島市文化交流会館/

JMS アステールプラザ

運営事務局: 近畿日本ツーリスト広島支店内

E-mail: jsoi51th@or.kntcs.co.jp

<https://www.kntcs.co.jp/ec/2021/jsoi/>

●第64回日本口腔外科学会総会・学術大会

会期: 2021年11月12日(金) ~ 14日(日)

会長: 原田浩之

(東京医科歯科大学大学院顎口腔外科学分野)

会場: 幕張メッセ

【運営事務局】 株式会社コングレ

E-mail: jsoms2021@congre.co.jp

<https://www.congre.co.jp/jsoms2021/index.html>

●第20回日本睡眠歯科学会総会・学術集会

会期: 2021年11月26日(金) ~ 28日(日)

会長: 鮎見進一

(九州歯科大学顎口腔欠損再構築学分野)

会場: 北九州国際会議場

【運営事務局】 iコンベンション株式会社内

<https://jadsm2021.com/>

● The 66th Annual Meeting of the American

Academy of Maxillofacial Prosthetics (AAMP)

会期: 2021年10月24日(日) ~ 26日(火)

会場: Hotel Del Coronado, San Diego, CA,

USA

<https://www.aampconference.com/>

コンテンツ

委員会トピックス	1
コロナ禍での歯科治療	2
2020年度優秀論文賞受賞者の声	4
関連学会報告	4
書籍の紹介	5
2022年以降の日本顎顔面補綴学会学術大会・総会の予定	5
関連学会のご案内	6

皆様のご意見をお寄せください。

一般社団法人日本顎顔面補綴学会 広報委員会

委員長 中島純子

委員 猪原 健, 大木明子, 関谷秀樹,

堀 一浩, 宮本哲郎, 吉岡 文

E-mail: max-service@onebridge.co.jp